

# 平成27年度 赤穂市立塩屋小学校 学校評価報告書

学校名 赤穂市立塩屋小学校

## 1 本年度の学校経営方針

### (1) 教育目標

ともに学び、仲よく遊ぶ児童を育てる ～自ら考え、学び合い、希望を高く～

### (2) 校 訓

【明く】

【清く】

【強く】

#### めざす学校像

- 1 保護者、地域とともに歩む学校
- 2 安全・安心の保障された学校
- 3 環境が整備されたうおいのある学校

#### めざす児童像

- 1 あいさつができ、友とわかり合う子
- 2 真剣なまなざしで学習にのぞむ子
- 3 健康で明るく元気に遊ぶ子

#### めざす授業像

- 1 児童全員が主体的に参加する授業
- 2 児童同士の関わり合い、学び合いがある授業
- 3 言語活動を通して、伝え合う力を高める授業

#### 求める教師像

- 1 とことん児童に関わり続ける教師
- 2 常に授業の向上を目指す教師
- 3 児童の人権を大切にする教師

### (3) 学校経営の基盤とするもの

- ・ 人権尊重の精神に立つ学校づくり
- ・ 全ての子への学力保障
- ・ 健康・安全・安心の学校づくり
- ・ 保護者・地域とともに歩む学校づくり
- ・ 職員の資質向上

### (4) 重点課題

#### ① 保護者・地域と連携した教育の推進

- ・ 保護者・地域住民の学校運営への参画
- ・ 学習成果の発信
- ・ 学校評価、保護者アンケートの教育活動への反映
- ・ ふるさと意識の醸成

#### ④ 特別支援教育の充実

- ・ 職員の理解と実践力の向上
- ・ 校内指導・支援体制の確立
- ・ 関係機関との連携による支援体制と支援方法の研究・実践
- ・ 保護者・地域への啓発

#### ⑦ いじめ・不登校の解消

- ・ 第三者委員会最終提言の実践
- ・ 未然防止のための取組
- ・ 早期発見・早期対応・組織としての対応
- ・ 家庭との連携指導
- ・ 情報モラル教育の推進

#### ② 授業力の向上

- ・ 授業のスタンダード化(公開授業ウィークの実施)
- ・ 全員が意欲をもって参加できる授業づくり
- ・ 学び合いのある授業づくり
- ・ 児童主体の授業づくり

#### ⑤ 児童の規範意識・マナーの向上

- ・ きまりを守ろうとする意識
- ・ 公共物や施設を大切にせる態度
- ・ 相手を大切にした言葉遣い
- ・ 行儀・礼儀の指導
- ・ 自転車使用時のヘルメット着用

#### ⑧ 学校組織力の向上・学校業務改善

- ・ 教育目標・重点課題の共有化
  - ・ 学校評価を活用した学校運営
  - ・ 職員の協働体制、成果の共有化
  - ・ 学校業務の工夫改善
- (子どもと向き合う時間の確保、メンタルヘルスの保持・増進)

#### ③ 配慮を要する児童への対応

- ・ 児童の内面理解
- ・ 実態に応じた支援・指導の計画
- ・ 保護者との意思疎通
- ・ 常に「気にかけて」「目をかける」意識

#### ⑥ 危機管理意識・管理体制の確立

- ・ 安全配慮義務の徹底
- ・ 防災体制・防災意識
- ・ 地域安全体制の確立
- ・ 食物アレルギーへの理解と対応の体制
- ・ 対応マニュアルの見直し

#### 【総合的な学校関係者評価】

赤穂市コミュニティ・スクールに指定され、「保護者や地域の要望に応えた学校づくり」や、「積極的な学校の公開」の点で高く評価している。以前は学校の情報が十分に伝わってこないこともあったが、現在は「学校だより」の地域での回覧を毎月行うなど、情報発信が積極的に行われている。子どもたちも、地域の行事によく参加しており、よい関係となっている。学校との距離が近くなり、学校や子どもたちのことがよく見えるようになってきた分、いい点も改善すべき点もより見えるようになり、学校に意見しやすくなってきている。

これからは、子どもたちが将来の地域の担い手として、どのような大人に成長して欲しいのか「理想像」を決め、そのような大人の成長するためには、学校や家庭や地域は何をしたらよいのか一緒に考えていきたい。

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
①保護者・地域との連携	項目	児童の主体的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりに努めることができたか	児童アンケート 入学式 学級懇談会	A	○学力調査の結果からも「学校が好き」と答える児童が多かった。今後、ますます家庭と連携した家庭学習(自主学習等)を推奨していく必要がある。
	指標	学校に来ることが楽しいか	保護者アンケート		
	項目	各通信・オープンスクール・ホームページなどで情報を提供したり、保護者からの相談を受けたりすることができる開かれた学校づくりに努めたか	児童アンケート	A	○通信を出し、保護者へ学習内容を伝えたり、宿題で家庭・学園からのコメントをいただくなど連携を図ってきた。 ○「しおっ子応援団」の力を活用して地域の協力を得ることで、充実した活動を行うように今後も努める。
	指標	学校からの連絡を家の人に見せることができたか	保護者アンケート		
	項目	学びの機会を充実するとともに、家庭と連携して学習習慣を身につけるように工夫したか	児童アンケート 学級懇談会 個別懇談会	B	○提出物がそろいにくい児童については、本読み表やお便りケースを確実に見ってもらうよう家庭に依頼するなど、保護者との連携を図る。
	指標	家庭学習をして、提出物を出すことができたか	保護者アンケート		
②確かな学力	項目	児童の実態に応じた学習課題を設定し、意欲を持って、自ら学び、自ら考える力を育成するように努めたか	児童アンケート 学級懇談会	B	○理解が遅い児童がその授業の中で学習内容を理解できるようにするためにも、児童生徒支援教員を活用するなど、個別の対応を増やし、自信をもたせる。 ○児童同士のほめほめやふり返りの時間を確保し、児童の自信向上に努める。
	指標	楽しく学習し、勉強がわかりやすかったか	保護者アンケート		
	項目	基礎・基本的な内容を明確にし、評価の基準を定め、指導方法を工夫改善して理解の徹底を図ったか	児童アンケート 学力テスト等	A	○研究授業や公開授業週間を設定し、授業内容の改善を図った。また、朝学習や自主学習ノートの書き方指導など、モデルを示し、取り組みやすい環境作りに努める。
	指標	学習したことをまとめたり、発表したりできたか	保護者アンケート		
	項目	家庭学習の定着及び充実を図ることができたか	児童アンケート	B	○肯定的評価を積極的に行うことで、児童の意欲を高めるよう努める。
	指標	意欲的に家庭学習に取り組むことができたか	保護者アンケート		
③健やかな体	項目	「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、子ども達に声かけ等の働きかけをすることができたか	児童アンケート 学級懇談会	B	○児童アンケートにおいて、特に低い数値を出していた項目であったので、児童の実態調査をもとに、家庭でのふり返りを行うことで、強化を図る必要がある。
	指標	目標を決めて、「早寝・早起き・朝ごはん運動」に取り組むことができたか	保護者アンケート		
	項目	望ましい食習慣を養う一助となるよう、給食の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○給食の食べ残しがあるクラスがまだまだ多いので、まずは完食をスタンダードにできるよう声をかける。また嫌いなメニューも少なくして完食できるようにすることで自信をつけさせるよう努める。
	指標	好き嫌いをせず、給食を食べることができたか。			
	項目	一人一人の体力・運動能力の向上を目指し、外遊びを奨励したり、体育の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 個別の指導計画	B	○児童アンケートにおいて、「休み時間は外で元気に遊ぶことができたか」の数値が全体的に低く、学年が上がるに従って低い数値となる傾向がある。外で遊ぶ機会をクラス遊びを取り入れるなど工夫し、教師も外と一緒に遊べるよう心がける。
	指標	休み時間は外で元気に遊ぶことができたか	保護者アンケート		

【学校関係者評価】

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、教育ビジョン(経営方針)や重点目標を明確に示している。</li> <li>・学校は、保護者や地域の要望に応えた学校づくりに努めている。</li> <li>・学校は、オープンスクールや行事などを通じて、積極的に学校の公開を行っている。</li> <li>・学校行事(参観日、地区懇談会、運動会、音楽会など)は、保護者や地域の方々が気軽に参加できるようにしている。</li> <li>・学校は、「学校だより」などにより、学校の様子を積極的に伝えている。</li> <li>・今後についても、これまでと同様に地域に根づいた学校運営に努めてほしい。子どもは地域の宝。大変お手数をおかけするが、今後とも宜しくお願いしたい。</li> </ul>
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもは、学校の勉強が分かりやすいと感じ、意欲的に学ぼうとしている。」という項目に対し、保護者全体の84.8%が「そう思う・少し思う」と評価している。「あまり思わない・思わない」と評価している保護者が15.2%おり、さらに分かりやすい授業づくりや、家庭と連携した家庭学習の充実が望まれる。</li> </ul>
○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域では、子どもたちは公園等で元気に遊んでいる。</li> <li>・望ましい生活習慣や食習慣は、学校の指導だけではなく、家庭でのしつけも重要である。家庭と連携した指導ができるように努めていく必要がある。</li> </ul>

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
④豊かな心	項目	児童一人一人の実態を的確に捉え、全職員で共通理解して適切な指導を行うことができたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○授業時間だけでなく、クラブ活動やファミリー班活動などにおいても、異学年が認め合い、協力し合う場面を多く取り入れることで豊かな心作りに努める。
	指標	困ったことがあったら相談することができたか			
	項目	人権教育を全教育活動に位置づけ、差別や偏見を解消するため実践力を培うよう努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○児童一人一人の実態をより把握できるように、もっと言葉を交わし、児童の心に寄り添う関わりを増やすよう取り組む。
	指標	友達のよさやがんばりを見つけたことができたか			
	項目	全ての教育活動の中で道徳性を培うように配慮し、道徳的実践力を育成するように努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○道徳教育年間指導計画の活用を図り、道徳の校内研究を本格的に進める必要がある。
	指標	道徳の時間に学んだ事を生活で活かそうとしたか			
	項目	学級活動や学校行事に進んで参加し、学級や学校の諸問題の解決に努めるように指導したか	児童アンケート 運動会・音楽会 保護者アンケート	A	○特別活動委員会を複数回開催することで、特別活動の趣旨を周知徹底し、全員の指導力向上に努める。
	指標	協力して活動したり、行事に参加したりしたか			
⑤生徒指導	項目	児童の実態を的確に把握し、生徒指導上の問題行動等を未然に防ぐよう働きかけるとともに、問題行動発生時には、適切に対応できたか	児童アンケート 学級懇談会 保護者アンケート	A	○毎月の生活目標を、前月の課題をもとに生活指導委員会で設定し、全校朝会で周知徹底することで、児童自らきまりを守ろうとする意欲を高められた。次年度も継続して行う必要がある。
	指標	きまりを守り、正しい行動ができたか			
	項目	不登校に係る諸問題について、未然防止、早期発見、早期対応するとともに、早期解消に向け、保護者等との連絡を密にしなが、計画的に支援・指導ができたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○不登校対応マニュアルを活用し、早期発見後、不登校対策委員会やケース会議を開き、校内体制の強化や全教職員による周知を図るよう努めることで更なる抑止につなげる。
	指標	前向きで規則正しい生活を送れたか			
	項目	道徳性の向上と規範意識の醸成に向けて、計画的に指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○道徳の授業の基本形を研修し、全員の指導力を向上するとともに、週1時間を確実に確保できるよう努める。
	指標	善悪を判断して行動しようとしたか			
⑥児童をとりまく環境の整備	項目	危険箇所、危険物の除去・改修等に心がけ、清潔で衛生的な環境整備に努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○毎月の安全点検を教職員が分担して行い、児童にとって危険な箇所を速やかに営繕できるように来年度も継続して行う。
	指標	安全に心がけた生活でできたか			
	項目	教育活動を充実させるための教育的環境の整備に配慮し、研修内容を実践に活かし取り組んだか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○児童会活動における、従来の栽培委員会が環境委員会と変更となり、無言清掃の呼びかけや清掃用具の点検など、肯定的評価を児童同士が行ってきた。その結果、掃除の時間がよりよい時間となってきている。来年度もさらなる活動拡充に努める。
	指標	掃除をしたり、整理整頓をしたりできたか			
	項目	友達を尊重した呼び方をし、相手への嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消するよう指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○継続的な呼びかけが児童の「言葉遣い」など子ども達に変化をもたらしたことは確かである。引き続き、教職員が共通理解して指導していく必要がある。
	指標	友達を大切にする呼び方をし、優しい気持ちで接することができたか			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	○	・「子どもたちは、場に応じたあいさつができています。」「子どもたちは、相手の気持ちを考えた態度や言葉づかいができています。」という点に関して、地域においては評価が低い。学校の中での指導が学校の外でも生かされるように指導を工夫していくことが求められる。
◎	◎	・学校は、家庭や地域を大切に、ともに連携・協力して子どもたちの健やかな成長を目指し取り組んでいる。 ・学校・家庭・地域が協力して子どもの教育や通学の安全にあたっている。 ・ヘルメットの着用が子どもたちの中で浸透してきており、自転車に乗るときに自分からかぶるようになってきている。
◎	◎	・学校は、校舎内外の施設設備の整備に努め、安全で整った環境を作っている。 ・しおっ子応援倶楽部や地域の方々が、中心になって、子どもたちの学習支援や環境支援が積極的に行われている。

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、下記のA・B・C・Dに自己点検を行い、ポイントに換算し、教職員数で平均している。

A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント

※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

○学校行事の精選を行うことで、学力向上に向けたじっくりと学習に取り組む時間の確保。  
○児童・保護者アンケートにおいてCやDをつけた児童・保護者の思いの理解に努め、教育活動を展開していく。